

■ 演出ノート

ああ「悪夢」なんだ。

コロナ禍は端的に言って「悪夢」であった。いや、今でも。幸いなことに罹患したわけでもなく、親しい人を失ったわけでもない。仕事はかなり無くなったが、それでも小規模な公演が結構あって、飲食業などで苦勞されている方々に比べればかなり楽観的に暮らしていた。

しかし、在宅時間が増え、ネットで本当だか嘘だかわからないさまざまな情報に触れる機会が増えた。うすうすは感づいてはいたものの、テレビや新聞などマスコミの情報が随分いい加減だと、時にはひどいなと考えるようになった。こんなものを信じていたのか。

そうこうするうちに以前からあった中国の尖閣諸島周辺でのふるまい、台湾有事の可能性。ロシアのウクライナ侵攻。たび重なる北朝鮮のミサイル実験。安倍元首相の暗殺。値上げラッシュ。トルコの大地震……。何かわからない、不気味なものが自分たちに迫ってきているような不安感を抱くようになった。

今回の芝居に本格的に取り組むようになった時、コロナ禍は——つまりコロナそのものではなく在宅時間に変貌した世界観は——私にとって「悪夢」なのだと確信するに至ったのである。

構成・演出 安田雅弘

劇団 山の手事情社 公演

『デカメロン・デッラ・コロナ』

2023年3月24日(金)～26日(日)

池上会館 集会室

構成・演出 安田雅弘
照明 関口裕二 (balance,inc.DESIGN)
音楽 齋見浩平
衣裳 綾
美術・映像 青山健一
舞台監督 本弘
宣伝美術 福島 治 ラデツキーリョウタ

協力 公益財団法人セゾン文化財団



今回のようなタイプのお芝居を見慣れていないお客さまもいらっしゃると思いますので、内容について簡単にご説明をしようと思います。ネタバレの部分もございますので、ご注意ください。

今回のようなお芝居を「構成演劇」と呼びます。一つの筋を追った物語を上演するのではなく、一見関係のなさそうな幾つかの要素を組み合わせて（構成して）、総体として一つの印象を描く手法のことです。絵画の「コラージュ」のようなものと考えていただいても構いません。

『デカメロン・デッラ・コロナ』は大きく 3 つの要素から成り立っています。一つは『人類への提言』。鼎談の部分です。小林秀雄と岡潔による名対談『人間の建設』をヒントに作られたシーンです。もう一つは『デカメロン』。100 個ある物語の中から、「第四日第五話」「第五日第八話」「第七日第九話」を選びアレンジしました。3 つ目は『悪夢（吉夢）のつぶやき』という場面です。「悪夢（吉夢）」を文字にする意図で安田が書いたものです。

それぞれ演出ノートにあるように「悪夢」がテーマになっています。

『人間の建設』は 60 年近く前に行なわれた対談であるにもかかわらず、語られている課題は解決するどころかむしろ深刻さを増しているように思います。「生存競争をしているうちは人類の時代ではない」と劇中のセリフにあります。「人類の時代」はむしろ遠のいているのではないのでしょうか。安田はそれを「悪夢」ととらえたようです。

『デカメロン』は今読んでも面白い話が多く含まれていますが、『デカメロン』の中にある現代性を安田は「悪夢」と考えたようです。文字通り「悪夢」が描かれているもの、内容が「悪夢」的なものは、実はそれほど多くはなく、その中から 3 つの話を選んだということです。

『悪夢（吉夢）のつぶやき』はセリフとして書かれたものではないので、演劇的に成立させるために俳優はたいへん苦労したようです。それこそ「悪夢」と言えるかもしれません（笑）。

上記以外にも、両側の『落下』で滑り落ちてくる人たちや、『ルパム』と呼ばれるダンスシーンもあります。これらは俳優による発案です。山の手事情社ではどの作品でも俳優による多くの場面提案が行なわれています。『落下』する人々はどのような人たちに見えますか？ いろいろとご想像していただくのも演劇の愉しみの一つです。『ルパム』は在宅時間をテーマに作られたようです。俳優個々のくるくる変わる表情がポイントです。

参考文献：『人間の建設』（小林秀雄・岡潔著 新潮文庫刊）、『デカメロン』【上】【中】【下】（ポッカッチョ著 平川祐弘訳 河出文庫刊）、『ときがたりデカメロン』（田辺聖子著 講談社文庫刊）、『春宵十話』（岡潔著 光文社文庫刊）、『ドストエフスキイの生活』（小林秀雄著 新潮文庫刊）、『神曲』地獄編・煉獄編・天国編（ダンテ著 平川祐弘訳 河出文庫刊）、『ルネサンス史』（西本晃二著 東京大学出版会刊）、『ルネサンスとは何であったのか』（塩野七生著 新潮文庫刊）、『語れるようになる西洋絵画のみかた』（岡部唱幸監修 成美堂出版刊）、『世界で一番素敵なルネサンスの教室』（祝田秀全監修 三オブックス刊）、『新型コロナはアートをどう変えるか』（宮津大輔著 光文社新書刊）、『ベストの文化誌』（蔵持不三也著 朝日選書刊）、『イタリア・ルネサンスの世界』（アリソン・ブラウン著 石黒盛久・喜田いくみ訳 論創社刊）、『そのとき、西洋では』（宮下規久朗著 小学館刊）、『図説宗教改革』（森田安一著 河出書房新社刊）、『ローマ人の物語』（塩野七生著 新潮文庫刊）、『ベストの歴史』（宮崎揚弘著 山川出版社刊）、『キリスト教の真実』（竹下節子著 ちくま新書刊）、『ルネサンス料理の饗宴』（デイヴ・デ・ウィット著 須川綾子・富岡由美訳 原書房刊）、『ビジュアル図鑑 中世ヨーロッパ』（新星出版社編集部編 新星出版社刊）、『中世ヨーロッパの商人』（菊地雄太著 河出書房新社刊）、『磁力と重力の発見 2. ルネサンス』（山本義隆著 みすず書房刊）

■ キャスト

『人類への提言』

小室しずく（旧すめだ山荘の管理者） … 中川佐織
田川千隼 [ちはや]（文芸評論家） … 谷 洋介
飛鳥絃羽 [いとは]（数学者） … 佐々木 啓
大野堇 [すみれ]（宗教学者） … 安部みはる
カメラマン … 長谷川尚美

『デカメロン』「第七日第九話」（梨の樹の上から見える奇妙な風景）

ナレーション、ルスカ（侍女） … 安部みはる
ニコストラトス（裕福な貴族） … 谷 洋介
リュウディア（その妻） … 山口笑美
ピュロス（小姓） … 佐々木 啓
鷹 … 渡辺可奈子
客人1 … 長谷川尚美 客人2 … 有村友花

『デカメロン』「第四日第五話」（首を切り取るほど好き）

ナレーション、エリッサ（侍女） … 越谷真美
長兄 … 川村 岳
次兄 … 宮崎圭祐
リザベッタ（妹） … 松永明子
ロレンツォ（従業員） … 鍵山大和

『歌』 … 中川佐織／川村 岳 山口笑美 安部みはる 谷 洋介 名越未央 佐々木 啓 渡辺可奈子 高島領也 喜多京香 長谷川尚美 宮崎圭祐 有村友花

『デカメロン』「第五日第八話」（繰り返される地獄の罰）

ナレーション、フィロメーナの侍女 … 中川佐織
ナスタージョ（金持ちの独身の貴族） … 高島領也
フィロメーナ（未亡人） … 越谷真美
ナスタージョの友人 … 渡辺可奈子
ナスタージョの親戚 … 草野明華
幻想の女 … 名越未央
幻想の獐猛な犬1 … 喜多京香 幻想の獐猛な犬2 … 長谷川尚美
幻想の精悍な騎士 … 川村 岳

『悪夢のつぶやき』① 「カセットテープひとつの約束なんて〜」 … 越谷真美／

川村 岳 名越未央 松永明子 渡辺可奈子 高島領也 喜多京香 宮崎圭祐 有村友花 鍵山大和 草野明華

『悪夢のつぶやき』② （チャッピー）「ビッグパンの直前〜」 … 喜多京香

『吉夢のつぶやき』③ 「『通過』というお告げに包まれたくて〜」 … 川村 岳／

（海辺の少女たち） 渡辺可奈子 有村友花 草野明華

《ルパム》ソロ … 名越未央

『古い友人に会いなさい』（小道具、椅子の移動） … 山本芳郎

『落下』（滑り落ちるメンバー） … 山本芳郎 川村 岳 山口笑美 越谷真美 名越未央 佐々木 啓 松永明子 渡辺可奈子 高島領也 喜多京香 長谷川尚美

『テレビ台車』（移動するメンバー） … 名越未央 松永明子 渡辺可奈子 高島領也 喜多京香 長谷川尚美

アナウンス … 中川佐織 名越未央 渡辺可奈子 高島領也 鹿沼玲奈

■ 構成表

アナウンス

《ルパム》ソロ

『人類への提言』

「開会」「芸術と煩惱」「連続体仮説」

『悪夢のつぶやき』①

「カセットテープひとつの約束なんて～」

『デカメロン』

「第七日第九話」

(梨の樹の上から見える奇妙な風景)

『人類への提言』

「人類の時代」「ドストエフスキー」「如来と自分」

『デカメロン』

「第四日第五話」(首を切り取るほど好き)

『悪夢のつぶやき』②

「ビッグバンの直前～」

《ルパム》全員

『デカメロン』

「第五日第八話」(繰り返される地獄の罰)

『古い友人に会いなさい』

『人類への提言』

「不易流行」「素読教育」「閉会」

『吉夢のつぶやき』③

『『通過』というお告げに包まれたくて～』

(海辺の少女たち)

■『落下』、『海辺の少女たち』

原案 … 越谷真美 山口笑美 松永明子
渡辺可奈子 草野明華 鹿沼玲奈

■《ルパム》「ZAITAKU」

振付 … 安部みはる 川村 岳 名越未央
喜多京香 宮崎圭祐 有村友花

■『デカメロン』「第四日第五話」『歌』

作曲・指導 … 中川佐織

■『古い友人に会いなさい』使用楽曲

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
マリン・オルソップ(指揮)、角野隼斗(ピアノ)、
ポーランド国立放送交響楽団
© Narodowa Orkiestra Symfoniczna Polskiego Radia w Katowicach
© 2022 eplus music

■ スタッフ

照明オペレーター 菅橋友紀
音響オペレーター 大西香織

舞台写真撮影 平松俊之 (Ray / create.)

舞台映像撮影 植松博之 (すけだち)

WEB制作 中村 元 小嶋広佳 (tandemwarp)

演出助手 小笠原くみこ 河合達也 鹿沼玲奈

制作 福富はつみ

■ カンパニースタッフ

水寄真弓 倉品淳子 浦弘毅 斉木和洋 太田成美 馬場玲乃

■ 協力

安岡孝進 安岡和世/美馬圭子 平戸優希 高野瑞葵/
カルテット・オンライン (敬称略)

■ 賛助会員

ana! Gisela 葛原梓 シエ シュワッチ スッシー
(株)ステージワークURAK 鎌倉餃子UMINECO・鉄鍋&バル 新橋店
佐々木 均 topaz924 内藤明彦 肉まる ハッピーカーズ朝霞店
羽根田 誠・紀子 ハルカ まーびょん マーブル もみじ
匿名 (敬称略)

□ 劇団 山の手事情社 今後の予定

劇団 山の手事情社 公演『カラマーゾフの兄弟』

構成・演出:安田雅弘 原作:ドストエフスキー

2024年2月@すみだパークシアター倉

2023年度 ニュージェネレーション(準劇団員)募集中

ワークショップ「一日体験入団」「演劇ジム」

※ 詳しくはチラシをご覧ください

安田雅弘 講師

シリーズ講座(観客を創る)

演劇活動の現場から——安田雅弘さん(山の手事情社)と考える

※ 詳しくはチラシをご覧ください

[製作・お問合せ]

劇団 山の手事情社/有限会社アップタウンプロダクション

〒146-0082 東京都大田区池上4-2-8

TEL: 03-6410-9056 FAX: 03-6410-9057

E-mail: info@yamanote-j.org